

エッス 第13号

こうこがく

江戸時代の 国際交流の最前線！

ながさきぶぎょうしょあと 長崎奉行所跡

今回紹介する遺跡の位置



発見された立派な正面階段！

どんな遺跡？

江戸時代、幕府は外国との貿易を行う窓口として重要な場所だった長崎に奉行所を置いていました。長崎奉行所は今でいう県庁・警察・裁判所といった役割のほか、中国やオランダとの貿易の管理や長崎港の警備も行っていました。長崎奉行所は2か所に分かれていて、現在の長崎県庁（西役所）と長崎歴史文化博物館（立山役所）の場所にありました。

長崎歴史文化博物館



復元された建物の一部に発掘で見つかった階段がそのまま使われています。

これほど多く異国のものを見ることができるのも、貿易をしておる長崎だからこそじゃ。



とおやま かげみち
長崎奉行 遠山景晋
（「遠山の金さん」のモデルとなった遠山景元のお父さん）

遺跡から出土したもの



花十字紋瓦 奉行所が作られる前にキリスト教が建てていた可能性を示す資料。
スープ皿 形はヨーロッパ様式。作られたのは中国。
フリュエーググラス 出島復元整備室蔵
ワインボトル
十手（じって）

唐人屋敷の幽霊話

江戸時代の長崎には貿易のためにやってきた中国人が住む唐人屋敷がありました。ここで死んだ人をお墓に葬るときは棺の中に片方の靴を入れ、片方を棺の上に置きます。葬式が終わると家族は棺の上に置いた靴を持って帰り、家で供養します。すると夜になって「パタリ…パタリ…」と足音が聞こえてきます。これは靴をとりわが家に帰ってくる死者の霊の足音だといひます。日本の幽霊は足がありませんが、中国の幽霊には足があるのですね。もし、唐人の幽霊に出会ったときは「ハジメテキタボウシュンカンコラクウヨカ」と呪文をと念うるとたりを受けないとされています。

このお話の舞台となった唐人屋敷跡では発掘調査が行われ、堀の跡や石垣がみつかっています。また、多くの中国製の陶磁器や古銭などが出土し、中国の人々が暮らしていたことがよくわかりました。中国の人が暮らしていた長崎だからこそ、中国の幽霊の話が今まで伝えられてきたのでしょうか！



中国製の陶磁器 / 長崎奉行所跡出土

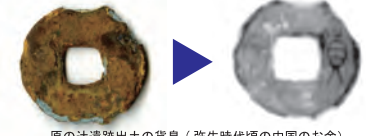
長崎県埋蔵文化財センターニュース

体験イベント 「精密分析機器で調べてみよう」開催！！

文化財の研究で活躍している「精密分析機器」を使った体験イベントです。

スケジュール	
5月	3日 水 祝
	4日 木 祝
7月	21日 金
	28日 金
8月	3日 木
	4日 金
	8日 火
	9日 水
10日 木	

機器の紹介



原の辻遺跡出土の貨泉（弥生時代頃の中国のお金）

「X線撮影装置」を使えばサビにおおわれたお金の文字もくつきり!! その他に「実体顕微鏡」や「赤外線撮影装置」を使ったクイズやマジックもあります！

当日参加もできるけれど、事前に申し込んでおくど安心じゃ♪



お問い合わせは
長崎県埋蔵文化財センターまで！

14:00 スタート
集合場所：杵岐市立一支国博物館 エントランス